

一次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

①仕事にあつて、技術にないものは山ほどあります。その理由は、技術は仕事から取り出されたのではなく、まったく別のものだからです。

しかし、こういう説明ではわかりにくいでしょう。田植機で苗を移植する技術は、田植えといふ百姓仕事の発展したものであるかのように考える人のほうが圧倒的に多いからです。しかし、手植えにあつて、田植機での移植にないものは何だろうかと考えないから、②「そういう説明で納得してしまうのです。」

多くの百姓のおばあさんが、田植えは楽しかったと言います。なぜなら、田植えをしながら、みんなと話に③「からです。ごちそうも用意されていました。」

しかし、田植機での移植には、歌も会話ありませんし、そもそも早乙女が植えるほうが稲はよく育つのだという習慣もなくなっています。それは、一人でもできるように、労働時間を節約するために、ただひたすら生産性を上げるために、そういう精神で手植えにおきかえるために開発された技術だからです。

田植機によって節約された時間は、どこで使われたのでしょうか。田植機を買うための農業以外への稼ぎに使われました。あるいは農業経営の規模を大きくするために使われました。また、稲作以外の野菜や果樹や畜産をはじめするために使われました。つまり、分業に使われました。けっして、余裕ができた時間で遊んだりゆつくりするためではありません。その証拠に、田植えのあとや稲刈りのあとに、年寄りたちが温泉に泊まりがけで何日も出かけていた習慣はなくなりました。

私は、田植機の出現などの④農業の近代化によってよくなったことばかりを、農政や農学が言い立てることに⑤「を抱いて、少年時代と青年時代を生きてきました。なぜなら、近代化によって失っていく世界の豊かさが身にしみるからです。だからこそ、得られたものと失ったものを⑥天秤にかけるぐらいのことはしておきたいのです。」⑦「仕事が新しい近代化技術におきかえられていくことによって、何をなくしたのかを考えれば、仕事と技術のちがいがわかるでしょう。」

数年前、近所の九三歳になるお年寄りの百姓夫婦に、落ち穂ひろいの話を聞いて、⑧「飛びあがるほど驚きました。」

落ち穂ひろいという仕事は、コンバイン（稲を機械で刈りとって、籾をわから落とす機械）の登場で、なくなりました。むしろこの自動収穫機械の登場によって、田んぼに落ちる籾や麦粒の数は増えたのですが、なにしろ穂として落ちるよりも、粒で落ちるために、ひろいにくいのです。穂なら一穂ひろえば一〇〇粒はついているのですが、一〇〇粒を田んぼの中でわらをかきわけてひろうのは大変でしょう。何よりも落ち穂ひろいは、それほどの経済的な価値を生みださないのです。

それでは、かつての落ち穂ひろいは、何のためにおこなわれていたのでしょうか。フランスの画家ミレーの『落ち穂ひろい』という有名な絵があります。あの麦の落ち穂ひろいをしているのは、麦畑を耕作してきた百姓ではありません。近所の百姓でない貧乏な人たちなのです。キリスト教の精神では、麦は神からの恵みです。それを独占するのではなく、貧しい人たちとも分かちあうという気持ちがよくあらわれていて、感動します。しかし、それはキリスト教の普及した国のことであつて、日本ではそういうことはないだろうと思っていました。

しかし、気になってたずねてみました。

「昔は、落ち穂ひろいはどうしていたのですか」

すると、すぐに、

「落ち穂ひろいは⑨「、というのがしきたりだった」

という答えが返ってきたのです。驚いた私は、

「ええっ、どうですか？」

とさらにたずねました。

「稲刈りが終わりにかけるときには、もう畦に袋をもった人たちが待っていて、私たちが引き上げるとさつと田んぼに入ってきて、ひろいはじめていた」と言うのです。

現代では落ち穂であつても、その田んぼの百姓の所有物です。他人が無断でひろっていたら、窃盗になるでしょう。ところが、かつては米は天地（自然）からのめぐみだというのが日本人の農業観でした。前にも述べたように、⑩「百姓はけつして米を「つくる」とは言いませんでした。」とれる「できる」と言った意味がわかるでしょうか。人間が主役ではなく、百姓はめぐみを受けとるのです。したがって、百姓だけが独占的に受けとるのではなく、貧しい人と天地のめぐみを分かちあっていたのです。じつにキリスト教の精神と似ているでしょう。日本と西洋と離れていても、百姓という仕事の共通性に胸があつくあります。

このように、稲刈りという仕事には落ち穂ひろいがくっついていましたが、コンバインによる稲の収穫技術にはそれがありません。⑪「これも仕事と技術のちがいです。」

（『農は過去と未来をつなぐ 田んぼから考えたこと』 宇根 豊）

問一——①「仕事にあつて、技術にないもの」とあるが、この文章において②「仕事」、⑥「技術」を説明するために用いられている具体例を一つずつ答えなさい。

問二——②「そういう説明」の「そういう」がさしている部分を抜き出し、はじめと終わりの三字を書きなさい。

問三——③「には「盛んになる、にぎやかになる」という意味の慣用表現が入ります。」植物を用いた表現を答えなさい。

問四——④「農業の近代化」がめざしたことは何ですか。二つ書きなさい。

問五——⑤「に当てはまることばを次から選びなさい。」
ア 賛意 イ 反発 ウ 同情 エ 興味

問六——⑥「天秤にかけるぐらいのことはしておきたい」といっている筆者の考えとして最も適当なものを選びなさい。
ア 得られたものと失ったものはどちらが多いか知りたい
イ 得られたものもあるが失ったものの方が多い
ウ 失ったものと得られたものは同じくらいある
エ 失ったものもあるが得られたものの方が多い

問七——⑦「仕事が新しい近代化技術におきかえられていることによって何をなくしたのか」とあるが、百姓の「仕事」からなくなったものは何ですか。これより前の部分から、例を三つあげなさい。

問八——⑧「飛びあがるほど驚きました」とありますが、驚いた理由を次から選びなさい。

ア 伝統的な行事の消えていく理由が、技術の発展のためだと気づいたから
イ 機械で行う作業よりも、手作業の方が無駄がないということを知ったから
ウ 日本と西洋の百姓が同じ精神を持っていたことがわかったから
エ 現在では罪になるようなことが、昔は許されていたと知ったから

問九——⑨「にあてはまるものを次から選びなさい。」

ア すばやく行わなくてはならない
イ 気をぬかずに行う
ウ 百姓の重要な仕事である
エ 百姓はしてはいけない

問十——⑩「百姓はけつして米を「つくる」とは言いませんでした」とありますが、その理由を説明しなさい。

問十一——⑪「これも仕事と技術のちがいです」とありますが、この文章で筆者は「仕事」をどのようなものだと考えていますか。説明しなさい。

問十二——次に挙げる田や穀物に関する表現を、（ ）に当てはまる漢字を入れて完成させなさい。

1 我田引（ ）
2 濡れ（ ）で粟
3 （ ）るほど頭の下がる稲穂かな

一 一次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

志村先生が褒めてくれた詩のタイトルは「店番」です。当時、私の家である①乾物屋には住み込みの店員さんが二人いました。中学を出て地方からうちに就職した二十前後の若い人たちです。その二人に混じって中学生の私も店番をしていました。店番するときはグレーの店服を着ました。私も店番するときは店服を着なければなりませんでした。乾物屋は服に二オイがつくうえに意外に汚れる仕事なので店服を着た方が便利ですし、②両親の気持ちとして住み込みの店員さんに対して私を③特別扱いしないという意味もあったのだと思います。私はグレーのその店服を着るのがイヤでイヤで仕方がなかったのです。④店がくすんでいゝ上に店服までくすんだグレーなのですから、気持ちとしてはどんどん沈んでいきます。そんな気持ちを、私は四行の詩に書きました。

店服を着ると

子どもでもない

大人でもない

宙ぶらりんの自分

「子どもでもない」というのは、中学生(中学生は世間的にはまだ子どもですよ)なのに大人並みに店服を着せられるということです。「大人でもない」というのは、店服を着ているのに中身は中学生だということです。私は店服を着ると子どもではなくなり、かといって大人でもなくなつて、宙ぶらりにされたような中途半端な気持ちになつて自分の居所が⑤つかみかねてしまうのです。

今思えば全然大した四行ではありませんが、中学生だった私はこの四行を書いたとき、店番がイヤでイヤイラした気持ちがスツと落ち着く感じがしました。店番に対するイヤな思いが減つたような気分でした。⑥宙ぶらりんと書いたことで、逆に宙ぶらりんでなくなつた気がしました。

「詩人になれるぞ」のあとで、志村先生は「正確だ」と言つてこの四行を褒めてくれました。ねじめの気持ちが正確に書けている、ということです。先生のその言葉を聞いて、わたしは「あ、そうか」と思いました。当時の私は「あ、そうか」と納得しただけで、それを説明することはできませんでした。

でも、今なら説明できます。私は自分の気持ちを表す正確な言葉を見つけたので、イヤイラした気持ちがスツと落ち着いたのです。イヤな思いが減つたのです。宙ぶらりんでなくなつたのです。詩を書くことは正確な言葉を見つけることなのです。

ここで言葉の正確さについてもう少し考えてみましょう。「店番」の詩で、私が「店番がイヤだ」と書いたらどうだったでしょうか。そういう感情はたしかに私の中にありましたが、しかし、店番はイヤでありながら一方で暮らしでした。一番大切な暮らしでした。店服は着たくなかったけれど、しかし、着ることによつて⑦私の暮らしは成り立っていました。だから「店番がイヤだ」と書いても、「店服を着たくない」と書いても、私の気持ちの片方しか表せていないことになります。それではダメなのです。正確ではないのです。

正確であるということは、本質のまわりをぐるぐる回ることではなく、⑧本質をぎゅつと鷲掴みにするということです。「店番がイヤだ」や「店服を着たくない」は自分が思つたこと感じたことを正直に書いてはいるけれど、それはただ正直なだけであつて、正確ではないのです。

言葉による表現を始めたばかりの人は、正直な言葉と正確な言葉を混同しがちです。たかぶつた気持ちをたかぶつた言葉で書いたり、悲しい気持ちを悲しい言葉で書くことが正確だと思つてしまうのです。でも、本当にそうでしょうか。人間ってそんなに単純でしょうか。

『ぼくらの言葉塾』 ねじめ正一

問一 — ①「乾物屋」で売っているものを一つ選びなさい。

ア 古新聞や雑誌 イ 布団やまくら
ウ 植木や草花 エ こんぶや煮干し

問二 — ②「両親の気持ち」とはどのような気持ちですか。最も適当なものを次から選びなさい。

ア 店員さんへの同情
イ 子どもへのやさしさ
ウ 店員さんへの遠慮
エ 子どもへのきびしさ

問三 — ③「特別扱い」とはこの場合、どのようにすることか、書きなさい。

問四 — ④「店がくすんでいる」とはどのようなことをあらわしていますか。最も適当なものを次から選びなさい。

ア 地味な雰囲気のお店である
イ 安物ばかり売っている店である
ウ 格式のある古い店である
エ 忙しくて余裕のない店である

問五 — ⑤「つかみかねてしまう」とありますが、「つかみかねる」の意味に最も近いものを次から選びなさい。

ア つかんだだけではない
イ つかんだわけではない
ウ うまくつかめない
エ つかめそうでつかめない

問六 — ⑥「宙ぶらりんと書いたことで、逆に宙ぶらりんでなくなつた気がしました」とありますが、なぜですか。文中のこゝばを使って二十字以内で書きなさい。

問七 — ⑦「私の暮らしは成り立っていました」とありますが、「暮らしが成り立つ」とはどういうことですか。最も適当なものを次から選びなさい。

ア 家に収入がはいる
イ 店が人々の役に立つ
ウ 家族からほめられる
エ 自分らしく生きる

問八 — ⑧「本質をぎゅつと鷲掴みにする」とありますが、「店番」という詩で鷲掴みにされた「本質」とはどのようなものですか、説明しなさい。

二 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

私は「アントニオ」と呼んでいる。気さくで、冗談好きだけれど、気品があって、人と会うときはネクタイを締める。そんな都会的な友達のイメージだ。人間のことは知らない。東京・御茶ノ水にある日本大学カザルスホールの(①)のことである。ホールは所有者である日本大学のキャンパス再開発計画のため3月いっぱい使用停止になるが、私とアントニオの②付き合いはもう10年以上になる。

③オルガンを人格あるものとして扱ってしまうのは、呼吸する楽器だからかもしれない。鍵盤を押すと、ふいごの風がパイプを通して笛のように音が鳴る。ちなみに盛岡市の某ホールのオルガンのことは「ジョヴァンニ」と呼ぶ。こちらははぐつと素朴で優しい友人だ。

私はオルガン奏者で、1999年からカザルスホールの※「オルガニスト・イン・レジデンス」を務めている。いわば専属奏者で、月に10日はホールでオルガンを弾き、不具合がないか確かめ、コンサートを企画し、リサイタルを開いている。オルガニストは各地の楽器と(④)の出会いを繰り返すものだが、それとは違う深い縁をカザルスホールで築いてきた。

アントニオはオルガン製作の20世紀の名匠、ユルゲン・アーレントの作で、世界的にも貴重な楽器だ。このアーレントのオルガンが教会や大ホールではなく、カザルスホールのような室内楽向けのコンサートホールにある例は極めて珍しい。

開館10周年を記念して97年にオルガンが設置された時は大きな話題となり、⑤内外の一流奏者たちが続々とこの楽器を弾いた。世界のオルガニストの⑥あこがれの楽器といっても過言ではない。カザルスホール自体、日本初の室内楽専用ホールとして音楽界に大きな役割を担った。2002年には所有者が、主婦の友社から日本大学に移った。

私はイタリアに留学中、ミラノの教会にあるアーレント作のオルガンを弾いていた。その経験が⑦現在のレジデント職につながったが、最初はまだアントニオがホールになじんでいなかった。パイプオルガンはワインと同じで熟成に時間がかかる。しかし、シンブルで機能的な作りゆえか、故障や狂いは生じなかった。音は徐々に安定し、特にここ2、3年はぐつと良くなったと思う。

小ぶりの楽器だからパワフルではないが、音は輝かしく、ピュアで、耳に心地よい。「君は、その程度?」ぼくにはもつと表現力があるのに」と⑧楽器に欲求不満を訴えられたと感ずることもある。奏者に腕がなければ弾きこなせない。私自身もオルガンに育てられた。

20日には⑨カザルスホールでリサイタルを開く。バツハを弾くが、両手と足のペダルを駆使し、すべての音を室内乐的に響かせる、カザルスホールならではの作品を選んだ。自分とアントニオの集大成といえる演奏会だ。このホールで録音したCDも今月、リリースする。

オルガンは簡単に「引越」できるものではなく、ホールと対一つの楽器だ。アントニオの今後はまだわからないが、わが無二の親友が⑩音楽をとりあげられることはないと思っている。当の彼は最近「僕は大丈夫だよ」といわんばかりの⑪絶好調。だから私は、⑫まず自分の演奏に集中している。

※「オルガニスト・イン・レジデンス」ホール専属のオルガン奏者
「レジデント職」も同じ意味です。

(日本経済新聞 水野均)

問一 (①) にあてはまることばを五字以上で書きなさい。
問二 (②) 「付き合い」とありますが、どのような付き合いか、具体的に書いてある一文のはじめの三字を書きなさい。

問三 (③) 「オルガンを人格あるものとして扱ってしまう」とありますが、筆者がオルガンを人格あるものとして扱っていることがよくわかる行動をあげなさい。
問四 (④) に当てはまる四字熟語を次から選びなさい。
ア 一朝一夕 イ 一長一短 ウ 一世一代 エ 一期一会

問五 (⑤) 「内外」の意味を書きなさい。
問六 (⑥) 「あこがれの楽器といっても過言ではない」と最も近い意味のものを次から選びなさい。

ア あこがれの楽器をこえる
イ あこがれの楽器だといえる
ウ あこがれの楽器にすぎない
エ あこがれの楽器にはおよばない

問七 (⑦) 「現在のレジデント職につながった」とありますが、なぜですか。理由を説明しなさい。

問八 (⑧) 「楽器に欲求不満を訴えられたと感ずる」とありますが、筆者の感じていることはどのようなことですか。わかりやすく書きなさい。

問九 (⑨) 「カザルスホール」は何年間使用されましたか。適当なものを次から選びなさい。この文章は、二〇一〇年二月の新聞記事です。
ア 十年以下 イ 十一年〜十五年
ウ 十六年〜二十年 エ 二十一年以上

問十 (⑩) 「音楽をとりあげられる」とありますが、アントニオが音楽をとりあげられないためには、どうなることが必要ですか。考えて書きなさい。

問十一 (⑪) 「絶好調」の「絶」と最も近い意味の「絶」を含む四字熟語を次から選びなさい。

ア 絶体絶命 イ 面会謝絶 ウ 人氣絶頂 エ 空前絶後

問十二 (⑫) 「まず自分の演奏に集中している」とありますが、筆者の気持ちに最も近いものを選びなさい。

ア アントニオとの別れはつらいが、自分で決めた道を歩んでいきたい
イ アントニオのためにできることがあれば、自分は精一杯努力したい
ウ アントニオは調子が良いので、自分が取り残されたようでさびしい
エ アントニオには何の心配もなく、自分の仕事に専念できてうれしい

問十三 本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×をつけなさい。

ア オルガンは楽器に一つ一つ個性がある。
イ アーレント作のオルガンは、教会や大ホールに置かれるのが一般的である。
ウ 筆者はイタリアに留学中、初めてアントニオと出会った。
エ オルガンの音色は、ホールの大きさによって決まってくる。

四 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 ここは宮沢賢治セイタンの地です。
- 2 あらしにあつて船がナンパした。
- 3 両手を合わせてオガむ。
- 4 動物のシュウセイを学ぶ。
- 5 雨ダれの音が聞こえる。

解答用紙(国語) 受験番号

氏名

(句読点は字数にいれないこと)

一問一 ①

②

問二

3

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

から。

問十一

問十二

1

2

3

二問一

問二

問三

問四

問五

問六

から。

問七

問八

三問一

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三 ア

イ

ウ

エ

四

1

2

3

む

4

5

れ